

試験研究成果普及情報

部門	病害虫	対象	普及
課題名：輸出用主要植木樹種の根域における植物寄生性線虫の寄生実態			
<p>[要約] 植木・盆栽圃場の根域には多様な植物寄生性線虫が生息しているため、輸出前の線虫対策は必須である。植物病原性ウイルス伝搬線虫であるオオハリセンチュウはイヌツゲにおいて、主要農業害虫として知られるネグサレセンチュウはキャラボクにおいて、それぞれ検出リスクが高い。</p>			
フリーワード [※] 輸出、植木、植物寄生性線虫、検疫、土壌			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・生産環境部・病理昆虫研究室	
	協力機関	農林総合研究センター・生産技術部・花植木研究室 (独) 農研機構中央農業総合研究センター、(独) 森林総合研究所、埼玉県農林総合研究センター、(有) ネマテンケン、横浜植木(株)、千葉県植木生産組合連合会、埼玉県盆栽研究会	
実施期間	2009年度～2011年度		

[目的及び背景]

日本の伝統的な植木・盆栽類の人気の海外で高まるなか、千葉県は全国の輸出額の4割を占める重要な生産拠点となっている。しかし、輸出量の増加とともに、輸入国側の検疫で土壌中から植物寄生性線虫が検出される事例が増加し、早急な対策が求められている。そこで、線虫対策の確立に寄与するため、千葉県における植木・盆栽圃場において輸出主要樹種を中心に実態調査を行い、樹種ごとに植物寄生性線虫相を明らかにする。

[成果内容]

- 1 植木・盆栽圃場ではほとんどの根域で植物寄生性線虫が生息しており、多くの場合複数の科が混在している。検出された植物寄生性線虫は2目9科にわたり、通常の作物よりも多様である(図1)。
- 2 植物病原性ウイルスを伝搬するため検疫において特に警戒されているオオハリセンチュウは、イヌツゲにおいてイヌマキ、キャラボク、ゴヨウマツよりも検出される割合が高く(図2)、検出される頭数も多い(図3)。
- 3 農業害虫として世界的に重要視されているネグサレセンチュウは、ラセンセンチュウやイシユクセンチュウとともに、キャラボクにおいて他の樹種よりも検出される割合が高く(図2)、検出される頭数も多い(図3)。

[留意事項]

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

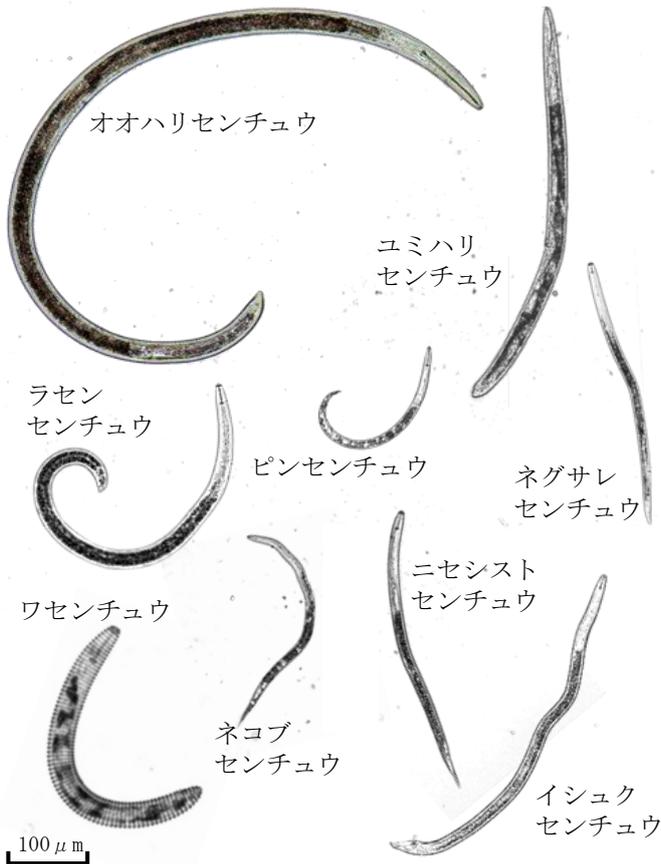


図1 検出された9科の植物寄生性線虫

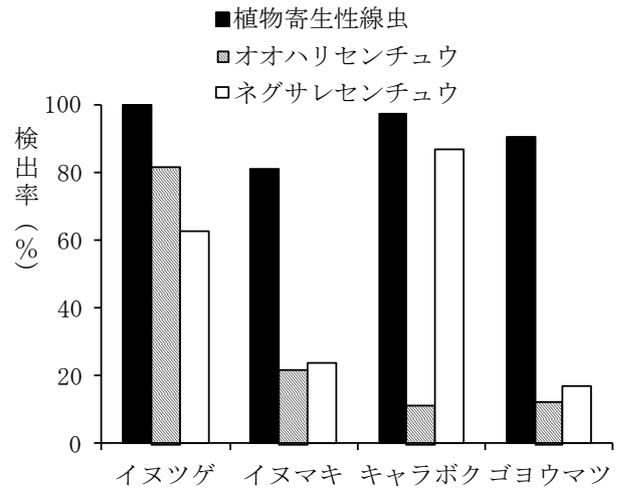


図2 各樹種における植物寄生性線虫検出率 (%)

注) 植物寄生性線虫は図1における9科のいずれかが検出されたことを示す

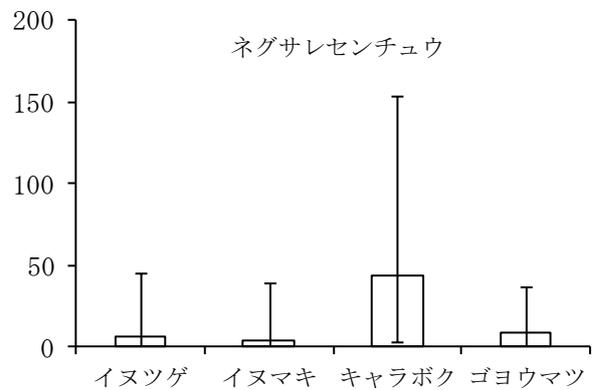
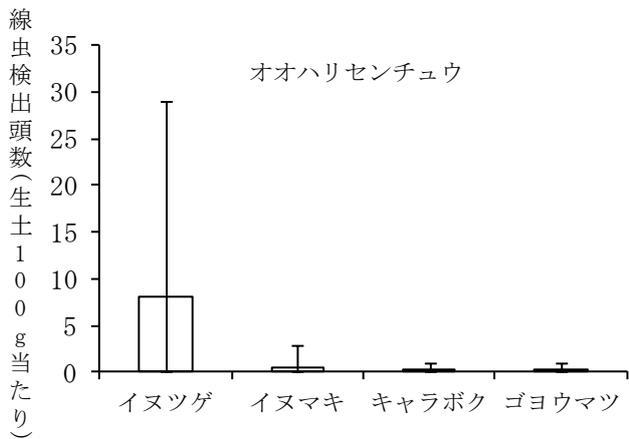


図3 各樹種におけるオオハリセンチュウ及びネグサレセンチュウ検出頭数
注) 図中のバーは最大値及び最小値

[発表及び関連文献]

- 1 平成 19 年度研究成果普及情報「輸出植木のホスチアゼート剤根鉢浸漬処理による線虫防除」
- 2 千葉県の主要植木・盆栽類根域土壌における植物寄生性線虫相、線虫学会誌、第 43 巻第 2 号、2013 年
- 3 平成 25 年度試験研究成果普及情報「輸出植木の MEP 乳剤根部（根鉢）浸漬処理によるオオハリセンチュウ防除」
- 4 平成 25 年度試験研究成果普及情報「輸出植木のベノミル水和剤根部（根鉢）浸漬処理によるオオハリセンチュウ防除」
- 5 平成 25 年度試験研究成果発表会（花植木部門）

[その他]

新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「課題名：植木・盆栽類の輸出促進に向けた線虫対策及び生産・輸送技術の開発」